

# 横小だより

新潟市立  
横越小学校発行  
R 3・10・18  
臨時号



Eメール e407yokogoshi@city-niigata.ed.jp

URL <http://www.e407yokogoshi.city-niigata.ed.jp/>

《シリーズ》



第2回

## Yokogoshi

校長

戸田 道治

今回も<sup>たけべとんご</sup>建部遯吾先生についてです。

東大教授をされた後は、帝国議会の衆議院議員に当選。その後は、近衛文麿首相より、貴族院議員の<sup>ちよくめい</sup>勅命(天皇の命令)を受けたとされています。

貴族院は、皇族や華族など世襲でなる議員の他は勅命を受けた議員で構成されていました。勅命を受けること自体に建部先生の功績を現しています。

右の書を、やはり神田館長様をはじめその他の方の御協力の下読み解くと、次のことが分かりました。

この句は、昭和2年、衆議院を代表し、パリの万国議員連合大会で演説するための渡仏に合わせて、当時日本統治下だった朝鮮半島に向かう際の心境を詠まれたとのこと。当時のアジアはヨーロッパの列強が群雄割拠している時代であり、政治家としてその荒海に乗り込もうとする志を重ねて詠んだ力強い作品であることが分かりました。易しく要約すると、次のようになります。

マラッカを発って南沙諸島にむかったが、心は軽やかではない。  
(アジアは列強支配されており)世界を治めようとしても未だうまくいかない。かつての六朝時代の夢を見ている私を笑ってくれ。

建部先生の志と文才を伺うことができます。

建部先生は文学博士の称号もお持ちで、これに関しては次のエピソードがウィキペディアで紹介されていました。

大正時代、天皇から「当今国内の学者で詩を能くするものは誰か」と問われた伯爵松浦詮は、「文学博士建部遯吾の如きはその一人でございます」と答えた。(出典：ウィキペディア)

小さい頃から「神童」と呼ばれた建部先生。間違いなく横越が排出した偉人であり、いつまでも学校の誇りです。いただいた掛け軸は学校のお宝として大切にしたいと思います。

